

令和7年度
新地町教育要覧



新地町の教育



新地町教育委員会

新 地 町 民 憲 章

- 1 ふるさとの海と山を愛し、美しい町をつくります。
- 1 互いに助け合い、心の豊かな町をつくります。
- 1 健康でしごとにはげみ、希望に満ちた町をつくります。
- 1 としよりを敬いこどもを愛し、明るい町をつくります。
- 1 郷土の歴史を大事にし教養を高め、文化の町をつくります。

目 次

I	町勢概況	1
1	新地町の概要	
2	新地町の人口・世帯数	
3	位置・面積・アクセス等	
II	教育行政	2
1	教育委員	
2	教育委員会事務局組織及び事務分掌	
3	教育委員会組織機構図	
4	令和7年度教育予算	
III	教育目標と重点事項	5
1	令和7年度教育目標	
2	新地町教育関係主要事業	
3	新地町教育委員会の施策と「新たな教育振興基本計画」の関連	
IV	学校教育	24
1	児童・生徒数	
2	教職員数	
3	学校医等	
4	学校評議員	
5	校長会・教頭会	
6	新地町教育研究会	
7	児童生徒数の推移	
8	小・中学校施設	
V	文化財	28
1	新地町の歴史的特色	
2	指定文化財	
VI	生涯学習・社会教育	30
1	新地町社会教育委員・新地町公民館運営審議会	
2	生涯学習・社会教育事業	
3	社会体育（スポーツ）事業	
4	社会教育・社会体育施設	
VII	図書館	38
1	図書館施設概要	
2	蔵書資料	
3	図書館利用者カード登録者数	
4	新地町図書館協議会委員	
5	令和7年度事業計画	
VIII	関係団体	43
1	新地町文化協会	
2	新地町スポーツ協会	
3	総合型地域スポーツクラブ	
4	新地町スポーツ少年団	
IX	新地町教育の沿革	46

II 教育行政

■ 1 教育委員

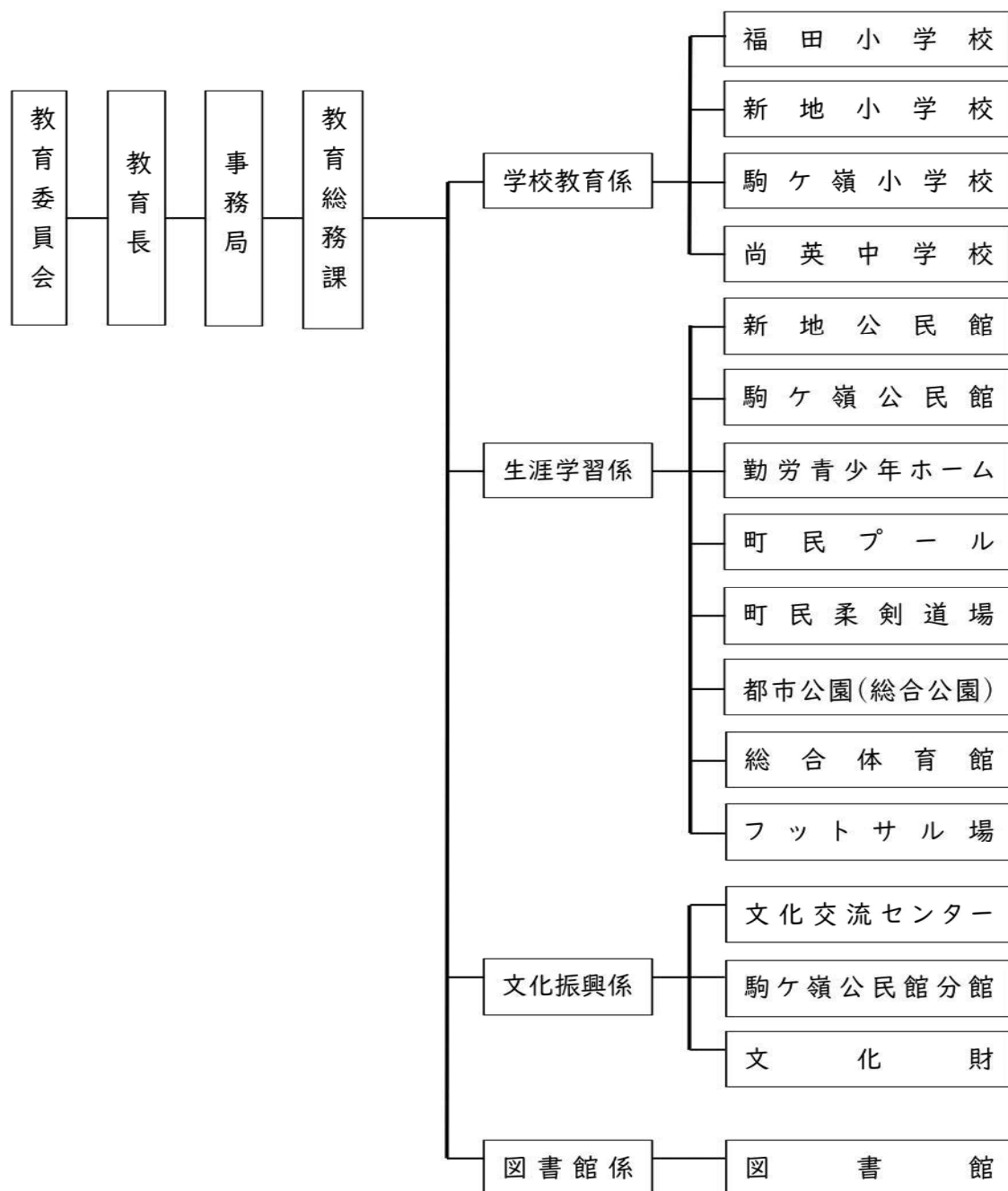
令和 7 年 4 月 1 日現在

職 名	氏 名	最初の就任年月日	任期年月日	通 算
教 育 長	泉田 晴平	令和 7 年 2 月 1 日	令和 8 年 9 月 30 日	2 月
教育長職務代理者	小林 成子	平成 29 年 10 月 1 日	令和 7 年 9 月 30 日	7 年 6 月
委 員	田村 民雄	令和 元年 10 月 1 日	令和 9 年 9 月 30 日	5 年 6 月
委 員	名取恵美子	令和 4 年 10 月 1 日	令和 8 年 9 月 30 日	2 年 6 月
委 員	中江 義昭	令和 6 年 10 月 1 日	令和 10 年 9 月 30 日	6 月

■ 2 教育委員会事務局組織及び事務分掌

課名・係名・職名		氏 名	主な事務内容
教 育 総 務 課	教育総務課長	木幡 邦枝	課総括
	副主幹兼課長補佐	黒沢 知子	課長代決等に関する業務
	学 校 教育係	主任主査兼学校教育係長	学校教育・学校教育施設全般・学校給食公会計に関する業務
		指導主事（任期付）	学校教育・教育の情報化・ICT教育・教職員研修等に関する業務
		指導主事（任期付）	学教教育全般・教職員の人事・5歳児健診等に関する業務
		主 査	教科用図書、学校教育施設利用、奨学資金業務
		主 事	児童生徒の就学・学校の福利厚生・係の庶務に関する業務
	生 涯 学習係	生涯学習係長兼公民館長	生涯学習・社会教育全般に関する業務 公民館長全般に関する業務
		主 査	社会教育・施設管理に関する業務 男女共同参画に関する業務
		主 査	社会体育振興に関する業務
		副 主 査	家庭・青少年教育・公民館教室
		副 主 査	社会体育・国際交流・係の庶務に関する業務
	文 化 振興係	文化振興係長兼文化交流センター長	芸術文化振興・文化交流センターの管理運営全般に関する業務
		主 査	文化財・史跡・町史等に関する業務
		副主任用務員（再任用）	社会教育施設・施設周辺環境整備に関する業務
	図書館係	図書館長（会計年度任用）	図書館業務全般に関する総括
		副主幹兼管理係長兼司書	図書館の事務事業全般に関する業務
		主任司書	図書館の司書全般に関する業務

■ 3 教育委員会組織機構図



【新聞を活用した授業】



【ICT を活用した学習内容の共有】



■ 4 令和7年度教育予算(当初一歳出)

(単位:千円)

款	項	目	総額(千円)	比較増減(R6年度)
教 育 費	教育総務費	教育委員会費	25,011	△2,352
		事務局費	184,785	15,289
		外国人招致事業	0	△2,260
		小 計	209,796	10,677
	幼稚園費	教育振興費	3,354	0
		小 計	3,354	0
	小学校費	学校管理費	41,962	△7,847
		教育振興費	8,648	△2,667
		小 計	50,610	△10,514
	中学校費	学校管理費	25,861	△6,849
		教育振興費	7,284	△1,400
		小 計	33,145	△8,245
	社会教育費	社会教育総務費	31,124	3,730
		公民館費	80,952	8,505
		文化財保護費	4,842	△9,360
		発掘調査費	498	△90
		図書館費	47,196	△1,267
		文化交流センター費	31,023	△1,011
		小 計	195,635	507
	保健体育費	保健体育総務費	8,900	△430
		小学校給食費	57,799	23,119
		中学校給食費	30,643	16,610
		町民プール費	5,558	△1,820
		柔剣道場費	478	△30
		総合体育館費	18,410	△4,594
		フットサル場費	1,999	△118
		小 計	123,787	32,737
	合 計		616,327	25,162

★ 令和7年度教育予算に占める歳出項目の割合上位 5 項目

- ① 事務局費 30.0%
- ② 公民館費 13.1%
- ③ 小学校給食費 9.4%
- ④ 図書館費 7.7%
- ⑤ 小学校管理費 6.8%

Ⅲ 教育目標と重点事項

■ Ⅰ 令和7年度 教育目標

「夢を育み 可能性を伸ばす」

観海堂の建学精神であった広い視野と深い思慮を礎として、笑顔と活力があふれる故郷の創造を図ります。

【基本方針】〔新地町教育大綱・第6次新地町総合計画〕

- 1 子どもたちが知性や感性を育み、このVUCAの時代を力強く生き抜くために先進的且つ充実した学習環境を提供し、学校教育と家庭教育への支援を行う。
- 2 新地町民が「Well-being」を実現していくために各研究機関や大学及び民間等の力を幅広く活用し、学校教育と生涯学習の充実を図る。

Ⅰ 特色ある教育活動の推進

1 学習環境の充実と多様な学びの提供

- ICTを基盤とした先端技術を活用して、一方通行・画一的な授業等から「個別最適な学び」と「協働的な学び」への変革を一体的に推進することにより、「主体的・対話的で探求的な深い学び」の充実と、「VUCA」の時代とも言われる変化の激しい社会を「生き抜く力」を身につけることに努める。
- タブレット端末の持ち帰り学習や、家庭学習用テキスト「小学生の知恵袋ち・か・ら」を活用し、家庭と連携しながら家庭における学習習慣及び基礎・基本の定着を図る。
- ICT支援員や学習支援員を配置したり、地域の人材や外部講師を積極的に活用したりして、児童生徒へのきめ細かな学習支援の一層の充実に努める。
- 科学的リテラシーの定着を大切にし、探究・STEAM 教育、文理横断・文理融合教育等を推進するため、環境教育や防災・放射線教育、安全教育などを体験的に学んだり、SDGsの視点で学習したりする活動を通して、グローバルな視野に立って考える態度、並びに危機回避能力を身につける。
- 児童生徒の情報活用能力育成のため、教師のICT活用・指導力の向上を図る一方、働き方改革の推進のため、教育 DX の推進に向けた環境整備等を進める。
- 福島県の施策である少人数教育のメリットを最大限に活かせるよう指導法の改善に努める。

2 地域とともにある学校づくりの推進

- 家庭教育支援の充実により、学校・家庭・地域との連携を強化し、地域の人材や団体等を活用しながら郷土の歴史や文化を学んだり、体験活動や社会奉仕活動、自然体験活動などの充実を図ったりすることで学校・家庭・地域を大切に作る人材を育成する。
- 大学や地元企業等と連携してグローバルな視野を身につけさせるとともに、連携の機会を生かして教育活動の活性化を図る。

3 心身の健康増進と心の教育の推進

- 学校給食に地場産物を積極的に活用したり、食育を推進したりすることを通して、食に関する自己管理能力の育成と健康課題の解消を図るとともに、「感謝の心」「郷土愛」の育成に努める。
- 健康の保持増進や体力の向上に主体的に取り組めるよう、地域でのスポーツや交流を通じた心身の健康を増進する教育活動の充実を図る。
- 「Well-being」の視点を大切にし、SCやSSW・SSRを活用して不登校や心に不安を抱える児童生徒の学習機会の確保と将来の社会的自立に努める。

- 支援を必要としている児童生徒の長所・強みに着目することを重視し、共生社会の実現に向け、可能性を引き出すよう、きめ細かな指導に努める。

Ⅱ 生涯学習・ボランティアの推進

Ⅰ 生涯学習の総合的推進

- 持続的な地域コミュニティの基盤形成に向けて、公民館事業の活性化と機能強化を図り、新地町民の活躍機会の拡充を目指す。
- 各種教室や講座の充実と、団体・グループ活動の支援に努めるとともに、企業や大学、各種団体との連携による事業の充実を図る。
- ボランティア団体及び個人ボランティアの相互連携を図る。
- 学校教育におけるボランティア体験の機会の拡充や、町社会福祉協議会と連携したボランティアの育成・支援に努め、町民誰もが地域社会の担い手になることを目指す。

2 芸術文化活動の推進

- 新地町文化交流センター等を活用して、芸術文化をとおした交流の場の提供や小中学校との交流、情報の発信を行う。
- 芸術文化団体の自主的な運営による活性化を支援する。
- 郷土ゆかりの芸術文化人の作品等の展示を通して、紹介する。

3 読書の町づくりの推進

- 多様なニーズに応える施設づくりと、大人や子どもまで幅広い年代が身近に感じられる図書館づくりを推進する。
- 資料や事業の充実を図り、自らの学びや郷土愛を育む力を育てる本や、映像・音楽・電子資料などに触れる機会を提供する。
- 「子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動を推進する。

Ⅲ 文化・スポーツの充実

Ⅰ 歴史文化活動の推進

- 文化財や歴史書などを文化資産として、幅広い視点からの調査研究を推進する。
- 学校教育においては、小冊子「新地町の文化財」や小学校社会科副読本「わたしたちのまち新地」を活用し、郷土の歴史文化の学習から郷土愛を育む。
- 学校教育に限らず、ふるさと行事や昔話を継承するなど、地域への誇りと愛着を育む学びを推進する。

2 生涯スポーツ活動の推進

- 子どもの肥満防止、高齢化社会における介護予防、若者の出会いの場の創出などを踏まえた生涯スポーツ活動の充実を図る。
- スポーツに関連する事業の支援として、各種教室や講座の充実、スポーツ団体・グループ活動の活性化を図る。
- スポーツ活動の支援に適した人材を発掘し、生涯スポーツ活動事業に活用する。

- スポーツ推進委員による生涯スポーツ(ニュースポーツなど)の普及・啓発活動を行う。
- 人生100年時代に生涯にわたって学び続けることにより、健やかで豊かな心身を育成する。

令和5年6月16日の新たな教育振興基本計画の閣議決定を受け、「令和5年度 教育目標」を令和5年6月30日の定例教育委員会にて変更承認いたしました。「令和6年度 教育目標」は、前年度と変更ありません。

※ 「VUCA」: ブーカ

現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字4つを取って「VUCA」の時代とも言われています。

※ 「Well-being」: ウェルビーイング

経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方です。

※ 「STEAM 教育」: スティーム教育

Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Mathematics (数学) を統合的に学習する「STEM 教育(ステムきょういく)」に、Arts (リベラル・アーツ) を統合する教育手法です。Arts として人文社会科学、芸術領域が入ります。

※ 「教育DX」: 教育デジタル・トランスフォーメーション

デジタル技術を用いて教育現場をより良く変革すること。ICT 教育とは異なり、教育 DX は教育の手法や手段、教職員の業務等を変革させる「教育そのものの変革」に重点を置いています。

■ 2 新地町教育関係主要事業

(1) 奨学制度

町内に住所のある方で、奨学資金の必要な方に対して奨学資金をお貸しします。

ただし、国県や他の団体からの奨学金の貸付等を受けていないことが条件です。また、2名以上の連帯保証人(町内在住:原則)が必要です。

奨学金の返還は、貸付けを受けた月数の3倍の期間(ただし最大15年)内に奨学資金の総額を月賦返還(全部又は一部の一時返還も可)になります。

また、町内に定住して就業している方には、奨学資金の返還年額の相当額(最大18万円)を助成し、町で暮らし働く若者を支援しています。

<奨学資金貸付>

担当課:教育総務課

種 別	貸 付 金 額
大学・短大以上の在学者	月額 30,000 円
高専・専修大学(2年以上)の在学者	月額 20,000 円
高校の在学者	月額 15,000 円

(2) 文化財保護

① 指定文化財をはじめとする史跡・文化財の保護・管理・調査

② 開発等で失われる恐れがある遺跡・文化財の調査・記録保存

郷土史研究会等団体との連携を基に歴史・文化財に関する講演会・展示会等の実施

(3) 生涯学習・社会教育・社会体育

① 家庭教育事業

家庭教育学級(家庭教育講座)

② 青少年教育事業

少年の主張大会、「十七字のふれあい」作品募集、姉妹・友好都市シニアリーダー研修・交流会、
読書活動ボランティア支援事業

③ 社会教育・生涯学習応援事業

各種教室・生涯学習講座、学習サークル、生涯学習フェスティバル、職員出前講座、移動教室、
二十歳のつどい

④ 男女共同参画推進事業

男女共生のつどい、男の料理教室

⑤ 社会体育・スポーツ事業

スポーツ少年団、スポーツ協会、ニュースポーツ教室、自然体験ハイキング、町民プール事業、
市町村対抗ふくしま駅伝大会、市町村対抗軟式野球大会、市町村対抗ソフトボール大会、
総合型地域スポーツクラブ支援

⑥ 文化事業

文化協会支援、アートの魅力発信事業



【土器づくり体験教室】



左側 2 点【遮光式土器】 右側 【亀型土製品】
(いずれも三貫地貝塚 B 地点より出土)

(4) 図書館活動

① 子どもの読書活動推進計画に基づき、読書活動を推進する。

読み聞かせ会、ファーストブック事業、各学校施設内新地町図書館コーナー設置事業、
読書感想画コンクールの実施、各種体験学習の受け入れ、保育所・児童館との連携

② ボランティア団体や学校・学校図書室と連携し、資料利用拡大を図る。

資料相談と活用、学校図書室整備のサポート、読書ボランティアの活動支援、
出張貸出(移動図書館)

③ 各図書分類を精査し、利用しやすい配架・展示を行う。

選書会、図書の企画展示

③ 読書講習会等の開催、視聴覚室を活用した展示・行事实施

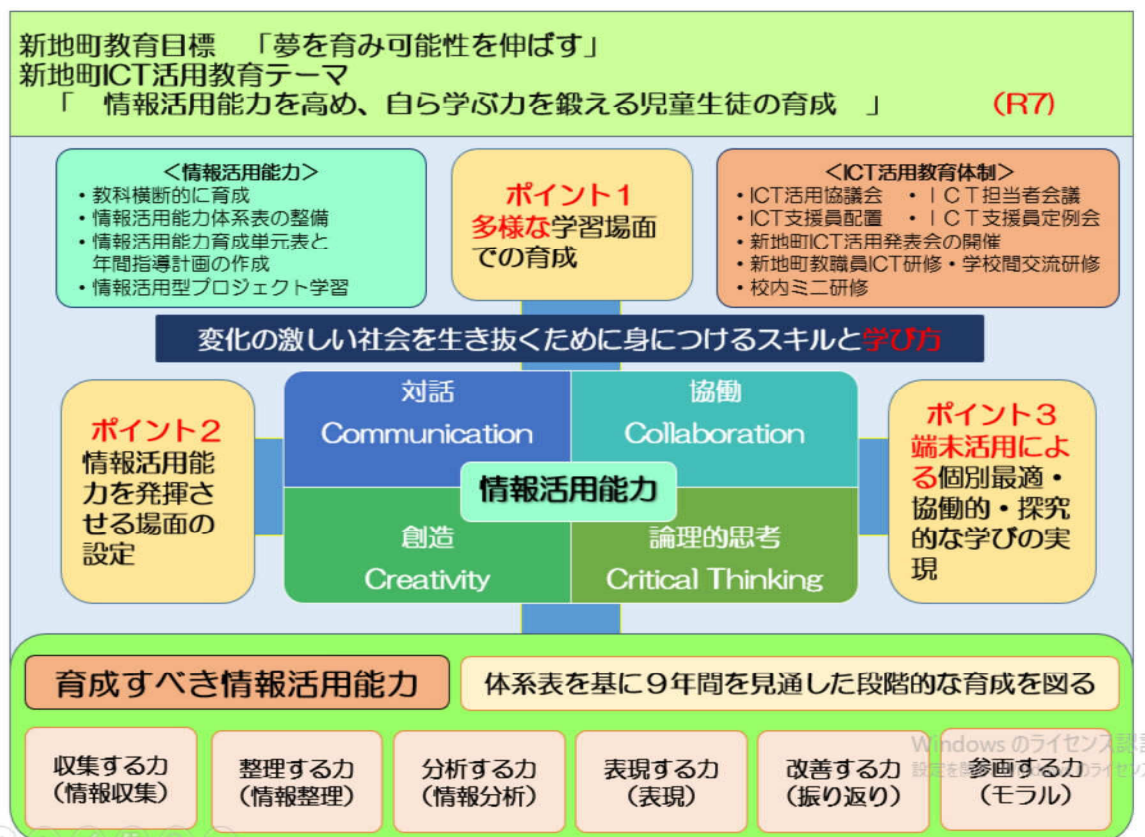
(5) ICT活用教育

① 新地町 ICT 活用教育研究テーマ

ICT の活用をととして、情報活用能力を高め自ら学ぶ力を鍛える児童生徒の育成

②方 針

各教科での学びの支えになる力や生涯学び続けるために必要な力である情報活用能力の育成をととして、変化の激しい社会を生き抜くために身につけなければならない4つのスキルの定着を目指す。



③ ICT 活用教育研究テーマについて

○ 情報活用能力について

※ 情報活用能力アンケート結果から、新地町の児童生徒には高い割合で能力が身につけていることから、一人一台の ICT 環境と ICT を活用した授業実践を行うことで、これからの社会で必要とされる4つのスキル(対話・協働・創造・論理的思考)の定着と自ら学ぶ力を鍛える児童生徒の育成を目指す。

＜具体的な内容＞

- ・個別最適な学びや協働的な学びの場を設定
- ・学習の主体者として、自己選択や自己決定の機会を意図的に設定
- ・情報活用能力体系表や単元配当表、年間指導計画等を自校化する
- ・9年間を見通した段階的な育成を図る
- ・新地町における育成すべき情報活用能力6つを意識した授業を展開する

- ① 収集する力(情報収集)
- ② 整理する力(情報整理)
- ③ 分析する力(情報分析)
- ④ 表現する力(表現)
- ⑤ 改善する力(振り返り)
- ⑥ 参画する力(モラル)

- I:各教科の特質に応じて適切な学習場面で育成を図る
 II:育成した情報活用能力を発揮させる場面を設定する
 III:主体的・対話的で深い学びの中で、自覚的な資質能力育成へつなげる
 →【対話】【協働】【創造】【論理的思考】4つのスキル

④ テーマの捉え方

◎ 子どもが主体者となる学習へ授業のあり方を変換し、児童自ら学ぶ力を鍛えることを目指す。これまで培ってきた情報活用能力育成については、引き続き教科横断的な取組と家庭との連携を図り、より自律した資質能力として定着を図ることをテーマとする。

- ・町の学力向上と関連した取組とする。→「新地町学力向上アクションプラン」
- ・新地町小中連携学力向上推進協議会との連携
- ・育成すべき6つの力を位置づけた授業実践→ICT活用発表会での授業公開

⑤ 新地町 ICT 活用発表会【令和7年11月7日(金)】

ICT 活用教育研究テーマ「情報活用能力を高め自ら学ぶ力を鍛える児童生徒の育成」

「個別最適な学び、協働的な学びを創造するためのツールとして ICT を効果的に活用し、探究型を基盤とした授業実践を通して、各教科での学びの支えになる力や生涯学び続けるために必要な力である情報活用能力の育成を図り、変化の激しい社会を生き抜くために身につけなければいけない自ら学ぶ力を鍛える児童生徒の育成を目指す」

◎ 日程等(案)

- 10:20～ 公開授業 福田小学校・駒ヶ嶺小学校(それぞれ3つの授業を提供)
 11:15～ 意見交流会
 12:15～ 昼食・移動
 13:15～ 公開授業 新地小学校・尚英中学校(それぞれ3つの授業を提供)
 14:20～ 意見交流会
 15:15～ 講演会

⑥ 年間情報活用能力育成年間計画

新地町小学校 情報活用能力育成 年間計画

情報活用能力育成の重点目標

◎ 問題解決的な学習で、情報収集と選択、読み取りとまとめ、発表などの活動を通して、活動スキル及び探究スキルの向上を目指す。

第1学年

	学習目標	学習内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動スキル	情報を集めたり、発信したりする際、手段の特性を考慮して活用することができる。	① 情報収集 ② インターネット ③ デジタルカメラ ④ パソコン ⑤ 図鑑・辞書		【生活】A1-A5 「ともだちがけこぎをたんけんしよう」										
探究スキル	情報の収集・編集(整理・分析や表現)・発信の過程を組み立て、目標を達成して評価・改善することができる。	① 情報収集 ② 読み取り ③ 整理 ④ 表現方法の選択 ⑤ 発信の方法 ⑥ 評価の方法 ⑦ 改善の方法		【生活】A1 「きれいにさいてね」		【生活】B6 「ききたいなともだちのはなし」				【生活】B1 「じどう車ずかんをつくろう」				
プログラミング	コンピュータを使った問題解決や表現活動を通して、情報技術の価値や自らの将来に関連付けて考えることができる。	① 情報収集 ② 読み取り ③ 整理方法の選択 ④ 表現方法の選択 ⑤ 評価方法 ⑥ データの活用 ⑦ 情報技術の活用	【生活】C4 「なんているかな」					【生活】J5 「どれみとなかよくなろう」	【生活】J4-C5 「コンピュータとなかよし」	【生活】J4-C5 「キャラクターを動かしてみよう」				
情報モラル	情報社会の価値や課題を認識し、情報手段を適切に活用しようとしている。	① ネット・インターネット ② 個人情報 ③ 著作権 ④ ネット・インターネット ⑤ ネット・インターネット ⑥ ネット・インターネット ⑦ ネット・インターネット					【生活】J4 「スマートフォンの使い方やルールを覚えよう」	【生活】J4 「みんなでルールを覚えよう」	【生活】J4 「コンピュータとなかよし」					

第2学年

	学習目標	学習内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動スキル	情報を集めたり、発信したりする際、手段の特性を考慮して活用することができる。	① 情報収集 ② インターネット ③ デジタルカメラ ④ パソコン ⑤ 図鑑・辞書	【生活】A2 「タブレット・PCをたんけんしよう」	【生活】A2-B5(D4) 「ときどきわくわくするたんけん」		【生活】A8 「エリーのすてきなぼうし」								
探究スキル	情報の収集・編集(整理・分析や表現)・発信の過程を組み立て、目標を達成して評価・改善することができる。	① 情報収集 ② 読み取り ③ 整理 ④ 表現方法の選択 ⑤ 発信の方法 ⑥ 評価の方法 ⑦ 改善の方法	【生活】B6 「学校をたんけんしよう」	【生活】B2 「かんさつ名人になろう」	【生活】A7 「メモをとるとき」	【生活】A4 「かんさつ名人になろう」				【生活】C2 「三角形と四角形」	【生活】B3-B2 「かけ算九九づくり」			
プログラミング	コンピュータを使った問題解決や表現活動を通して、情報技術の価値や自らの将来に関連付けて考えることができる。	① 情報収集 ② 読み取り ③ 整理方法の選択 ④ 表現方法の選択 ⑤ 評価方法 ⑥ データの活用 ⑦ 情報技術の活用	【生活】C2 「表とグラフ」	【生活】C4 「スイミー」	【生活】C1-C5 「リズムを覚える」	【生活】C1-C5 「リズムを覚える」		【生活】J4-C5 「うごくくわんのおもしろい」	【生活】J4-C5 「うごくくわんのおもしろい」					
情報モラル	情報社会の価値や課題を認識し、情報手段を適切に活用しようとしている。	① ネット・インターネット ② 個人情報 ③ 著作権 ④ ネット・インターネット ⑤ ネット・インターネット ⑥ ネット・インターネット ⑦ ネット・インターネット					【生活】J4 「ネットマナーを身につけよう」				【生活】J4 「ふいとおもしろいこと、よくないことおもしろいこと」	【生活】J1 「楽しかったよ2年生」		

第3学年

学習目標	学習内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
進歩力	情報を集めたり、整理したりする際、手段の特性を考慮して活用することができる。	【社会】A3 (B2-D4) 「受け継いだ価値の伝承」			【国語】A2 「ローマ字」								【国語】A2 「やまばら」
探究力	情報の収集・編集・整理・分析や表現・発信の過程を組み立て、目標を達成して評価・改善することができる。	【社会】B1-B2 「わたしのまち みんなのまち」	【国語】A1-B2-B3 「植物を育てよう」	【国語】B1-B2 「仕事のかたち、みつけたよ」			【社会】A5 「家でぼんやり」						【国語】B4 「読んでほめて、書かせる」
プログラミング	コンピュータを使った問題解決や表現活動を通して、情報技術の価値や自らの将来に貢献付けて考えることができる。			【国語】B2 「夢おぼろけ」	【国語】B4-B5 「風やぶんで動かそう」			【社会】C1-C7 「プログラミング」					【国語】C5 「書つくり」
情報モラル	情報社会の価値や課題を認識し、情報手段を適切に活用しようとしている。			【国語】D2 「経験するとき」		【国語】D1 「じゃあどう」							

第4学年

学習目標	学習内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
進歩力	情報を集めたり、整理したりする際、手段の特性を考慮して活用することができる。	【国語】A7 「ときどき、ふりかへよう」	【社会】A3-A4 「環境を考えよう」					【社会】A3 (B2) 「国土の発展・文化と暮らし」					【国語】A2 「おれにふりかへよう」
探究力	情報の収集・編集・整理・分析や表現・発信の過程を組み立て、目標を達成して評価・改善することができる。	【社会】A3-A5-B2 (B2) 「わたしたちのまち」	【社会】A3-A5-B2 (B2) 「わたしたちのまち」	【国語】B4 「夢をみる」	【国語】B5 「夢をみる」			【社会】A3-A5-B2 (B2) 「自然資源から暮らしを守る」					
プログラミング	コンピュータを使った問題解決や表現活動を通して、情報技術の価値や自らの将来に貢献付けて考えることができる。		【国語】C5 「おれは、おれ」	【国語】C2 「おれは、おれ」	【国語】C5 「おれは、おれ」			【国語】C5 (B2-C4) 「伝統工芸品のよさを伝えよう」					【国語】C1-C7 「プログラミング」
情報モラル	情報社会の価値や課題を認識し、情報手段を適切に活用しようとしている。	【社会】B2-C4-B5 「国へ学習活動」年間を通して	【社会】B2-C4-B5 「環境を考えよう」	【国語】D1 「経験するとき」									【国語】D1 「きょうめをもったこととふりかへよう」

第5学年

学習目標	学習内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
進歩力	情報を集めたり、整理したりする際、手段の特性を考慮して活用することができる。	【国語】A5-A6 「あて、あて、あて」	【社会】A3-B7 「地域の発展」	【社会】A3 「わたしたちのまち」									【国語】D1-C7 「プログラミング」
探究力	情報の収集・編集・整理・分析や表現・発信の過程を組み立て、目標を達成して評価・改善することができる。		【国語】B2 「おれは、おれ」	【国語】B3 「おれは、おれ」	【国語】B4 「おれは、おれ」	【社会】B1-B4 「わたしたちの生活と工業生産」	【国語】B5 「What would you like?」						
プログラミング	コンピュータを使った問題解決や表現活動を通して、情報技術の価値や自らの将来に貢献付けて考えることができる。		【社会】B2-B5 「おれは、おれ」	【社会】B2-B5 「おれは、おれ」	【社会】B2-B5 「おれは、おれ」	【社会】B2-B5 「おれは、おれ」	【社会】B2-B5 「おれは、おれ」	【社会】B2-B5 「おれは、おれ」					【国語】C4-C5 「おれは、おれ」
情報モラル	情報社会の価値や課題を認識し、情報手段を適切に活用しようとしている。	【社会】B2-C4-B5 「国へ学習活動」年間を通して	【社会】B2-C4-B5 「環境を考えよう」	【国語】D1 「経験するとき」	【国語】D4 「おれは、おれ」			【社会】B2-C4-B5 「おれは、おれ」	【社会】B2-C4-B5 「おれは、おれ」				【国語】D1 「おれは、おれ」

第6学年

学習目標	学習内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
進歩力	情報を集めたり、整理したりする際、手段の特性を考慮して活用することができる。			【国語】A3 「Let's go to study」									
探究力	情報の収集・編集・整理・分析や表現・発信の過程を組み立て、目標を達成して評価・改善することができる。			【社会】A3-B7 「地域の発展」	【国語】B1-B4 「わたしたちの生活と工業生産」	【国語】B5 「What would you like?」							
プログラミング	コンピュータを使った問題解決や表現活動を通して、情報技術の価値や自らの将来に貢献付けて考えることができる。		【社会】B2 「おれは、おれ」	【社会】B2-B5 「おれは、おれ」	【社会】B2-B5 「おれは、おれ」	【社会】B2-B5 「おれは、おれ」	【社会】B2-B5 「おれは、おれ」	【社会】B2-B5 「おれは、おれ」					【国語】C4 「おれは、おれ」
情報モラル	情報社会の価値や課題を認識し、情報手段を適切に活用しようとしている。	【社会】B2-C4-B5 「国へ学習活動」年間を通して	【社会】B2-C4-B5 「環境を考えよう」	【国語】D1 「経験するとき」	【国語】D4 「おれは、おれ」			【社会】B2-C4-B5 「おれは、おれ」	【社会】B2-C4-B5 「おれは、おれ」				【国語】D1 「おれは、おれ」

【新地町 ICT 活用発表会 例年11月に開催】



保護者の皆様

ICTしんちティーチャーズ 令和7年度版



新地町

タブレット端末活用のしおり

新地町教育委員会

新地町のタブレットを活用した教育について

新地町では、2011年度から継続してICT活用教育を推進しています。お子様が大人になる将来は、今は想像できないような新しい技術や仕事生まれ、生活も大きく変わって来ること考えられます。パソコンやインターネットなど、様々な技術や情報サービスを上手に使って学びを深めることで、そのような未来を生きる力を育くみ伸ばしてもらいたいと思っています。



日頃から情報機器を身近な学習ツールとして活用できるように、1人1台タブレットを配付しています。小学1年生から中学3年生まで、使い方を自分でも考えながらよりよく学んで下さい。



しおりの内容

- 1 学びはどう変わる..... 1
- 2 タブレット端末について..... 2
- 3 取り扱いについて..... 3
- 4 やくそく（小学校下学年向け）... 5
- 5 学習用タブレット端末活用のルール（小学校上・中学・中学生向け）..... 6
- 6 タブレット活用Q&A..... 7
- 7 タブレット端末（故障・破損・紛失・盗難）届..... 9
- 8 タブレット端末利用についての確認書..... 10
- 9 キーボード文字入力検定..... 11



Shinichi キーボード文字入力 検定



■ 検定基準

内 容	検定期間内に問題文通りに入力する。（ローマ字入力及びひらがな表記とする）
対象学年	新地町立小中学校 小学1年～中学3年
試験時間	1分間
認定基準	検定期間に入力した正しい文字数により、以下の段・級を認定する。
【新地基準】	
特級	200文字 以上
初級	150文字 ～
1級	145文字 ～
準1級	140文字 ～
2級	130文字 ～
準2級	120文字 ～
3級	110文字 ～
中3	準3級 100文字 ～
中2	4級 90文字 ～
中1	準4級 80文字 ～
	5級 70文字 ～
小6	準5級 60文字 ～
	6級 50文字 ～
小5	準6級 40文字 ～
	7級 30文字 ～
小4	8級 20文字 ～
	9級 10文字 ～
小3	10級 5文字 ～
採点方法	1ミスにつき1文字減とする。 両字数＝総字数－ミス数
検定期日	各校で月に1回程度検定期日を設けて実施する。
合 格 者	学校で実施した検定期日の両字数により、到達したレベルを認定する。 小学校では、新地基準の準5級（新地基準6年）に合格した児童、中学校では準3級（新地基準中学3年）に合格した生徒に対して、学校長から認定証を授与する。

※令和5年7月より実施

参考：日本情報処理検定協会 P 検定レベル

(6) 英語教育推進事業

① 英語検定の結果について

<新地町の英語力の現状(中学校3年)>

新地町	中学3年 生徒数	英語検定合格者数(人)					英検3級以上 合格率
		3級	準2級	2級	1級	合計	
令和6年度	63	23	17	6	0	46	73.01%

※新地町では中学2年生の70%以上が4級以上を取得している。(令和5年度)

<英語力向上の施策「第7次福島県総合教育計画」>

主な指標	現況値	目標値
中学3年生の内CEFR A1以上(英検3級以上相当)、 高校3年生のうちCEFR A2以上(英検準2級以上相 当)の英語力を有する生徒の割合	福島県 38% 全国 52% (令和6年度)	60%以上 (令和12年度)

② 新地町英語教育推進の取組みについて

(ア) 保・小・中10年間の接続した英語力向上に校種・園を越えて町全体で取り組む

(新地町小中連携学力向上推進協議会「英語部会」)

- 専門性の高い中学校英語教員と、小学校の「外国語教育推進リーダー」及び担任との連携による積極的な授業づくりと実践
- ICTを活用した英語授業改善、互見授業、研究会の開催(「新地町 ICT 活用発表会」)
 - ・発話量を十分に確保した授業デザインの実践
 - ・オンライン授業(中学校:東京北区飛鳥中学校、福田小:英国のALT 家族等)
 - ・学習者デジタル教科書の活用
 - ・AIドリル「タブドリ Live!」活用
 - ・朝の活動における発話タイム(中学校)
- 「新地町 Can Do リスト」の作成
- 新地町独自の英語活動
 - ・小学1、2年…年5時間
 - ・保育所…年3回
 - ・ALTの配置…小・中学校各1名



飛鳥中学校とのオンライン英会話(尚英中学校)

(イ) 英語検定受験及び推奨

- GTEC Junior 英語検定 小学6年、中学1年対象(町予算で実施)
- 中学校の日本英語検定受験の推奨

(ウ) 各種指定を受けた英語力向上事業

- 令和7年度「AIによる英語力強化事業」(文部科学省)指定校:尚英中学校
- 令和6年度「デジタル技術を活用した発信力強化事業」(文部科学省)協力校:福田小
- 令和6、7年度「ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業」(県教育委員会)

(7) 食育推進事業

① 新地町さわやかだ食育推進事業テーマ

新地の子どもは「さ・わ・や・か・だ」

「新地の子どもは『さ・わ・や・か・だ』」をスローガンに、学校・家庭・地域の連携・協力による食を中心とした生活習慣の改善と健康課題の解消を図る。

※「さ」は魚、「わ」は和食、「や」は野菜、「か」は海藻、「だ」は出汁・大豆を意味する。

② 事業目標

食育を通して、食に関する自己管理能力の育成及び望ましい食生活の定着を図り、肥満や栄養バランスの偏りなどの健康課題の解決を図るとともに、「感謝の心」「郷土愛」を育む。

(ア) 「さ・わ・や・か・だ」で始まる健康的な食材や料理を見直すことなどを通じた食育を推進することで、健康課題の解決を図る。

※「さ・わ・や・か・だ」は、東京家政学院大学の原光彦教授(二本松市出身 医師)が小児肥満患者の食生活改善のために提唱している「さわやかダイエット」を参照している。

なお、原教授には、本事業の推進委員として直接ご指導をいただいた。

(イ) 「さ・わ・や・か・だ」を取り入れた和食型食事の普及により、コロナ禍と2度に渡る福島県沖地震以降、増加に転じた肥満傾向児の解消を図る。

(ウ) 地元産の野菜・魚介類の積極的な活用により、地場産物のよさを見直し、郷土愛の育成につなげる。

(エ) 食に関する指導や食育講座を通して、みそ汁(汁物)のよさを理解し、高学年児童が家庭で調理できるようにする。また、みそ汁(汁物)の基本であるだしの良さを体験し、減塩意識につなげる。

(オ) 保護者に対して「さ・わ・や・か・だ」及び地場産物活用の良さを啓発することで、町食育推進計画と関連を図りながら、根強い風評被害の払拭と健康的な食習慣の定着を図る。

(カ) 各小中学校間での個別健康指導データの連携及び生活習慣病予防健診結果の経年追跡により、食育事業の効果と健康な身体づくりに関する変容を検証する。

(キ) 「早寝・早起き・朝ごはん」「メディアとの適切な付き合い方」について、町食育広報「食育しんち」等で啓発していくことで、保護者の実践意欲を高め、児童生徒にとって望ましい生活リズムの定着を図る。

③ 事業内容

(ア) 平成29年度から3年間取り組んできた文部科学省「つながる食育推進事業」の実績を踏襲し、学校・家庭・地域が連携・協力しながら食育を推進する。

(イ) 栄養教諭が核となり、町内全小中学校の食育推進コーディネーター及び保健主事・養護教諭が連携・協力しながら町全体で食育事業に取り組む。

(ウ) 「さ…魚、わ…和食、や…野菜、か…海藻、だ…だし・大豆」のよさを理解させるとともに、各家庭でも積極的に実践できるような食育講演会や食育講座、食育に関する指導等を展開する。

(エ) 町内外の各関係機関、食に関する専門家、大学等と連携し、食育推進事業の目的や取組内容を明確にして成果を検証する。

(オ) 食育を健康教育と関連させ、専門家監修による運動あそびや肥満傾向児向け健康体操を導入したり、学校や家庭での運動の機会を呼びかけたりすることで、日常的に積極的に体を動かそうとする健康意識の向上と1日60分以上の身体を動かす習慣(ふくしまっ子児童期運動指針:県教委策定)の定着を図る。

(カ) 生産者など地域の人材と連携して食物を育て、収穫する喜びと満足感を味わわせることで、地域の食材への関心と郷土愛を高める。



- (キ) 地域の専門家が持つ高い見識と調理技能を生かし、味覚、嗅覚、視覚等の五感を働かせながら直接体験する活動を通して、児童生徒一人一人の食への関心を高める。
- (ク) 「学校給食 in しんち おすすめレシピ集」「しんちの食育」を作成して活用を図り、主体的に食べ物を選択する力や食べる力、食をつくる力の育成を図るとともに、家庭・地域等への情報発信により積極的な連携を図る。

④ 主な実践事項

- (ア) 「さ・わ・や・か・だ」を意識した食育講演会及び食育講座、食に関する指導の充実
- (イ) 食育講座や食育講演会の内容を学校及び教育委員会ホームページに掲載することによる食育への理解と啓発
- (ウ) 生活リズム「早寝・早起き・朝ごはん」や運動習慣の改善につながる保健指導や食に関する指導の推進
- (エ) 肥満傾向児（適正体重の20%以上）に対する個別の健康指導の徹底
- (オ) 「学校給食 in しんち おすすめレシピ集」「しんちの食育」の配付による保護者との連携
- (カ) 町食育広報「食育しんち」による保護者への啓発
- (キ) 各種コンテストへの参加促進
- ・ ふくしまっ子ごはんコンテスト
 - ・ さわやかだ わが家のおすすめ料理コンテスト
 - ・ 町十七字のふれあいコンテスト(食育部門)

(P22 参照)

〈 児童生徒 〉

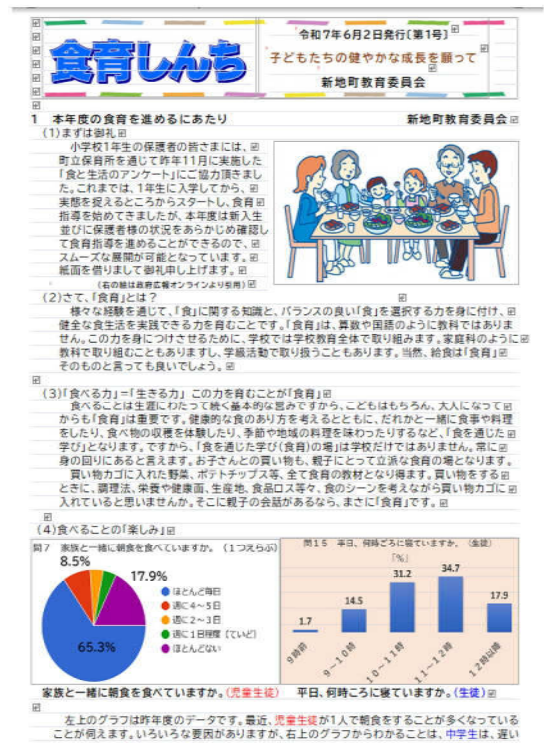
自己管理能力及び郷土愛の育成

- バランスの良い食事をとる力(食べる力)
- 健康に良い食べ物を選択する力の育成
- 和食を中心とした食文化への理解
- 規則正しい生活リズム・日常的な運動習慣の定着
- 食に対する感謝の心や郷土愛の醸成

〈 学校・保護者・地域 〉

地場産物への理解及び食の復興

- 地場産物を取り入れた学校給食の充実
- 家庭での地場物活用率の向上
- 根強い風評被害の払拭



【新地町の地場産物の活用率】

新地町の学校給食での地場産物の活用率は、年間をとおして6割を超え、県の目標値を平成28年度から毎年達成しています。

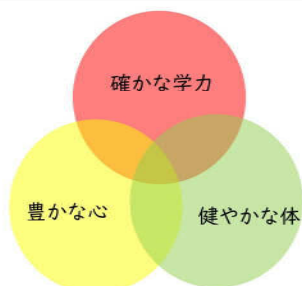
なお、県の目標値は令和4年度より、それまでの40%から50%に引き上げられました。家庭での地場産物の活用率も年々増加傾向にあり、「食と生活に関するアンケート」では「農産物」は98%、「魚介類」は86%が「よく使用している」「時々使用している」と回答しております。



■ 3 新地町教育委員会の施策と「新たな教育振興基本計画」の関連

〔新たな教育振興基本計画の5つの基本方針〕

- ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話



小中学校段階で育成する3つの要素

新地町教育委員会では、新たな教育振興基本計画と関連させて教育事業を展開しています。
以下にその関連と取組について表記します。



教育基本法を普遍的な使命としつつ、新たな時代の要請を取り入れていく「不易流行」の考え方を基調とした「新たな教育振興基本計画」では、児童生徒一人一人が将来の予測が困難な VUCA の時代(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)を乗り越え、それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるウェルビーイングを実現していくことが求められている。

その基盤として「真の学ぶ力」を身につけることが不可欠となる。

先の第三期教育基本振興基本計画では教育再生実行会議(第8次提言)において、教育投資の効果や社会が抱える課題を踏まえ、これからの時代に必要な教育投資について、「(1)全ての子供に挑戦の機会が与えられる社会を実現する、(2)あらゆる教育段階を通じて「真の学ぶ力」を培う、(3)「真の学ぶ力」を基に、実社会で活躍できる資質・能力を育成する、(4)学校が地域社会の中核になる」との4つの観点が示されている。

「真の学ぶ力」については

先を見通すことの難しい時代において必要とされるものは

社会で自立して活動していくための「真の学ぶ力」であり、

具体的には次の「学力の3要素」を育むことであるとされている。

- ①知識・技能の習得
- ②知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力
- ③主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

なお、第三期教育基本振興基本計画においては、目標Ⅰ「確かな学力の育成」として

「真の学ぶ力を構成する要素となる「子供たちの基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度を育成する。」と示されている。

新たな教育基本振興基本計画においても、目標Ⅰ「確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成」とその中心軸は継承された。

本町の教育目標についても同じ方向性(※特に基本方針①②と深く関連)を示すこととしました。

【新地町教育目標】

夢を育み可能性を伸ばす



未来を担う新地町の子どもたちが、将来の予測が困難な VUCA の時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）を乗り越え、個人と社会のウェルビーイングを実現するために、広い視野と、深い思慮を礎に、社会の変化を前向きに受け止め、人間ならではの感性と、言語感覚を磨きコミュニケーション力を機能させ、現代社会の課題解決につながる新たな価値観や行動力を生み出す力の育成を目指す。

〈5つの基本方針と町・教育委員会の施策との関連〉

- 1 グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
 - (1) ICT活用を軸とした「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業実践
 - (2) STEAM 教育の視点による学社連携授業
 - (3) 外国語活動、外国語科、英語科の充実に資するALTの配置
 - (4) 明治大・東京大、地域企業との連携による地域・産学官連携、キャリア教育
- 2 誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
 - (1) 「Well-being」の視点を大切にしたSCやSSW・SSRの活用と学習機会の確保
 - (2) 児童生徒の自己実現を支援するタブレット端末の持ち帰り学習による家庭学習の充実
 - (3) ICT活用を軸とした児童生徒一人一人に最適化された教育内容、教育環境の整備
 - (4) 学習支援員、介助員の配置等による特別支援教育の充実
 - (5) 児童生徒等の心身の健やかな育成に向けた充実した食育指導、スポーツ活動、美文朗読の活用や豊かな感性を育む読書活動の推進
 - (6) 「わたしたちのまち新地」を活用し、新地町の産業、文化、歴史、エネルギー施策等の特質を学び郷土愛を育む地域学習の充実
- 3 地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
 - (1) 新地町主催十七字のふれあい（ICT・食育部門）や少年の主張大会の実施
 - (2) 公民館や図書館、文化交流センター等の機能強化
 - (3) 自らの向上や地域社会への貢献の意欲を持った地域社会の担い手を育成する生涯学習の推進
 - (4) 自他の心情・生命・権利を尊重し、デジタル社会を生き抜く情報モラル教育
 - (5) 自ら危険を予測して回避したり主体的に行動したりする態度を育む防災教育・自ら判断し行動する力を育む放射線教育の充実
- 4 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
 - (1) 学習の基盤となる情報活用能力の育成
 - (2) 教師の指導力向上・ICT 支援員との協働・ICT 環境整備の充実
 - (3) 大学や地域企業と連携・協働した体験活動（科学的リテラシーの定着にも資する STEAM 教育の視点による自然体験活動、社会体験活動等）の機会充実
 - (4) 校務DXの充実整備
- 5 計画の実効性確保のための基盤整備・対話
 - (1) 学校における働き方改革と ICT 環境の整備
 - (2) 医療・保健機関、福祉機関、警察との連携による児童生徒の健康や安全を守るための取組推進
 - (3) 幼児期からの教育相談支援

第三期教育振興基本計画の本町における成果と課題

◇ 第三期教育振興基本計画当初の課題と実践

確かな学力

△思考、判断、表現力に課題

△家庭学習時間の減少

△主体的な学習態度に課題

豊かな心

△各種経験の減少から規範意識や社会性の稀薄化

健やかな体

△二極化（運動能力、運動の機会、運動への意識）

△昭和60年代と比較して運動体力の低下

【改善のために】

- ・ ICT 活用
- ・ イノベーション創出
- ・ コミュニティとの協働
- ・ アクティブラーニングの実践

◇ Ⅱ期（H25～29）

- 「社会を生き抜く力」の養成（基本的方向性Ⅰ）を掲げ、自立と協働を図るための主体的・能動的な力である「社会を生き抜く力」を養うこととした。

特に、子どもたちのコミュニケーション能力の育成を目指した。

◇ Ⅲ期（H30～R4）

- 主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造できる力の育成を掲げ、予測不能な社会に「柔軟に対応し、生き抜く力」を身に付け、社会が大きく変化しても困難な状況に立ち向かうことができる人材を育てることとした。

- ◇ 1人1台端末を用いた効果的な実践例の創出・横展開、デジタル教科書・教材・ソフトウェアの活用
の促進、ICT 支援員の配置の充実など、ICT の活用の日常化に向けて GIGA スクール構想を強
力に推進した。

対面指導の重要性や児童生徒等の発達の段階にも留意しつつ、ICT 教育（遠隔・オンライン
教育を含む）を有効活用した取組を推進したことで以下の成果が見られた。

学力面では、

- ・小中学校ともに平成 26 年度より向上
- ・特に活用する問題で 20 ポイント向上
- ・国語の「話すこと・聞くこと」、国語・算数の記述式解答で全国平均を上回る

◎日頃より ICT を活用し、ともに学び合う授業を通して、自らの考えを相手に伝える活動を実践
したことから、コミュニケーション能力が向上した。

身体面では、

- ・コロナ禍により、肥満傾向児の割合が全国平均を上回っている。
- ・SSR等での指導充実により、不登校傾向の児童生徒数は減少した。
- ・2度の福島県沖地震により、直後においては、不定愁訴を訴える児童生徒が散見された。

※ 新たな教育振興基本計画の「5つの基本的方針」を支える16の教育施策の目標の中から、新地町教育委員会と関連のある「指標」「施策」を以下に記載

【主として、確かな学力の育成】

- 目標1 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成
 - 目標4 グローバル社会における人材育成
 - 目標5 イノベーションを担う人材育成
- (指標) 全国学力・学習状況調査において全国平均、ふくしま学力調査において県平均を上回る。
- (施策) ICTを活用した学習者主体となる新たな授業スタイルの創造と実践
全国学力・学習状況調査・ふくしま学力調査の分析・活用

- ・ 町教頭会との連携による全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査の結果分析と保護者・地域へ周知
- ・ 小中連携学力向上推進協議会の開催と各校からの研究授業の提供、町内互見授業の実施
(P23参照)
- ・ 小学生の家庭学習の充実(小学生家庭学習用問題集「ち・か・ら」の活用)
- ・ 中学生の家庭学習の充実(中学生既成問題集の活用)
- ・ トライ塾(長期休業中の中学生への学習支援)
- ・ 学習支援員、学校図書館支援員の配置
- ・ 外国語活動、外国語科の完全実施に向けたALTの配置 (P13参照)
- ・ 中学校英語科の充実のためのネイティブスピーカーであるALTの町雇用
- ・ 小中連携事業による英語教育の充実(英会話 AI アプリの活用を含む)
- ・ 学び方指導の充実と AI ドリルやデジタル問題等を有効活用した個別最適な学習の推進
- ・ 美文朗読の活用による豊かな言語環境の提供
- ・ 明治大学・東京大学、地域企業との連携による学習支援や体験活動の機会提供

【主として、豊かな心の育成】

- 目標2 豊かな心の育成
 - 目標6 主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成
- (指標) 自己肯定感・自己効力感の向上
- (施策) 互いの良さを認め合う集団づくり、特別の教科道德を中心とした道德教育の推進

- ・ 新地町主催十七字のふれあい (ICT・食育部門) や少年の主張大会の実施
- ・ 各種コンクールへの積極的な参加を呼びかけ
- ・ SSWやSC、SSR 及び関係機関との連携による心のサポート
- ・ いじめ防止基本方針の徹底と各校によるいじめアンケートの実施
- ・ 町校長会、教頭会との連携による生徒指導情報の共有と町教委からの助言
- ・ ICTを活用した生徒指導データ (WebQU (※1) や関連図等) と学習データの連携による生徒指導を生かした学習指導の充実
- ・ 「わたしたちのまち新地」の積極的な活用
- ・ 地域企業や関連団体の人材活用による郷土愛を育む地域学習の充実

【主として、健やかな体の育成】

○ 目標3 健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成

(指標) 全国体力・運動能力調査において全国平均・県平均を上回る。

肥満傾向児出現率全国平均(10%)以下

(施策) 学校における体育指導や食に関する指導等の充実、児童生徒の体を動かす習慣(1日60分以上)の定着

- ・ 「さ(魚)わ(和食)や(野菜)か(海藻)だ(だし・大豆)」と地場産物を活用した食育事業の推進(栄養教諭を中核とした町内4校での取組:さわやかだ わが家のおすすめ料理コンテスト)
- ・ 各校ごとに実態に合わせて実施している1日60分以上体を動かす活動の推進(朝のマラソン、業間を活用した体操、個別の肥満指導)
- ・ 感染症予防マニュアル・食物アレルギー対応マニュアルの確認とバージョンアップ
- ・ 地域学校保健委員会による「早寝・早起き・朝ごはん」の推進
- ・ 自ら危険を予測して回避したり主体的に行動したりする態度を育む防災教育
- ・ 自ら判断し行動する力を育む放射線教育の充実
- ・ 郷土愛の育成や復興・創生を担う人材づくり含む環境教育・郷土学習の推進
- ・ 保育所、小・中学校が連携したきめ細かな就学指導・支援
- ・ 学習支援員、介助員の適正な配置
- ・ 町内各校で実態に応じたバリアフリー環境の構築
- ・ SCやSSW、SSR等、関係機関と連携した不登校傾向児童生徒への支援(ICTによる支援も含む)

【ICT教育の推進】

○ 目標11 教育DXの推進・デジタル人材の育成

(指標) 教員のICT活用指導力チェックリスト「ICT活用を指導する能力」を持つ教員が85%以上

(施策) 学習者主体となる探究型学習の推進

統合型校務支援システムの日常的運用・プログラミング教育の計画的推進

- ・ ICT活用協議会(町教委・町内小中学校管理職・情報担当教員・ICT支援員・ICTアドバイザーにより構成)を核としたICT教育の推進
- ・ 県内ばかりでなく全国からも参加者が集うICT活用発表会の開催(町内全校での授業公開、意見交換会、講演会)
- ・ 町教育委員会指導主事による、文部科学省・総務省主催の研修会・報告会への参加
- ・ ソフトウェア開発関連業者との連携による教員向け研修会の開催
- ・ 各校でのICT活用を促進するためのICT支援員の常駐配備
- ・ 自他を尊重する情報モラル教育の推進とシチズンシップ(※2)意識の醸成
- ・ 「情報活用能力体系表」「情報活用能力育成年間計画」(P10~11 参照)に基づいた情報モラル指導の充実
- ・ 「新地町タブレット端末活用のしおり」(P12参照)による家庭と連携したICT教育の推進

【児童生徒の学びを支える働き方改革の推進】

○ 目標12 指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化

(指標) 町内小・中学校教職員の時間外勤務時間を減少させる。

児童生徒に向き合う時間を増やすとともに、町内小・中学校教員の指導力を向上させる。

(施策) 学校行事の見直しによる授業時数の精選、学校閉庁期間の拡充
働き方改革に資する統合型校務支援システムの活用による校務の効率化

- ・ 統合型校務支援システムの活用と勤怠管理による勤務時間のデジタル運用
- ・ 教職員への校務用端末と指導用端末の配付
- ・ 町教委、町校長会・教頭会との連携による学校行事の見直しと教職員の働き方改革の推進
- ・ 夏季休業中に教育委員会学校管理日を設け、教職員の夏季休暇等の有給休暇取得を促進
- ・ 学校教育に関する外部評価委員会開催、保護者アンケートのウェブ評価
- ・ 統合型校務支援システムによる児童生徒の健康観察記録
- ・ LITALICO(※3)の活用による特別支援学級・通級指導教室「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成(合理的配慮と切れ目のない支援体制づくり)

【安心して学べる環境整備】

○目標15 安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保

(指標) 登下校時を含む学校管理下における児童生徒の事故発生件数を改善する。

各学区で起こりえる災害を想定し、主体的な避難訓練を計画通り実施する。

(施策) 学校・地域・関係機関との連携協力の下で通学路点検を実施する。

要請訪問Ⅰ及び管理訪問等の機会に校舎内外の安全管理指導を実施する。

放射線教育、防災教育を通して、放射線や地震・津波に関する科学的リテラシーを定着させる。

マイ・タイムラインの作成を通じて、どのような避難行動が必要か、自らのこととして捉え、さらには家族と一緒に日常的に考えることで主体的な防災意識を高める。

新地町「ながら見守り活動」(P22 参照)により、地域全体で子ども達を見守ることで安全の確保を強化する。

- ・ 警察、国道事務所、県、町関係課等の関係機関と連携した通学路点検の実施
- ・ 町校長会・教頭会との情報共有による安全指導の徹底
- ・ 教育委員会学校管理日を設け、町教委による定期点検による安全管理の徹底
- ・ 科学的リテラシー(※4)の定着にも資する放射線教室、防災教室の開催
- ・ 夏季休業前にマイ・タイムライン(※5)の作成、夏季休業中を生かした家庭への啓発
- ・ 地震や津波、台風などの自然災害に関する教育委員会作成資料の配付

※1 WebQU

学級経営アセスメントツール「Q-U」の Web 版でインターネット環境があれば利用できる学級経営サポートシステムであり、児童生徒の学級満足度をアンケート実施日当日に把握することが可能となります。

いごちのよいクラスにするためのアンケート(学級満足度尺度)」「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート(学校生活意欲尺度)」「ふだんの行動をふり返るアンケート(ソーシャルスキル尺度)」から構成されています。

※2 シチズンシップ

英語の「シチズンシップ(citizenship)」は、「市民権」を意味しますが、「シチズンシップ教育」は、他人を尊重しながら、市民として社会に参加し、その役割を果たせるように、児童生徒を育てることとなります。

※3 LITALICO

特別支援教育に携わる先生方の知識の獲得、個別の教育支援計画・指導計画の作成、日々の指導を包括的にサポートし、学校現場における教育の質向上を実現するための学校向けサービスのこと。福島県と株式会社 LITALICO が連携協定を結び、学校現場の特別支援教育を支える ICT サービス「LITALICO 教育ソフト」等の ICT を活用し、福島県内の公立学校における義務教育段階から高等学校段階までの切れ目ない個別の教育支援体制実現に向けて連携を図ることを目的としています。

※4 科学的リテラシー

「自然界及び人間の活動によって起こる自然界の変化について理解し、意思決定するために、科学的知識を使用し、課題を明確にし、証拠に基づく結論を導き出す能力」のことです。

その際に、科学的な原理や概念の理解にとどまることなく、それらを「生活と健康」、「地球と環境」、「技術」という側面から、日常生活に活用することを重視すること、科学的プロセスに着目し把握しようすること、科学的現象の記述、説明、予測、科学的探究の理解、科学的証拠と結果の解釈というプロセスに分類し、把握しようとするのが大切とされています。

※5 マイ・タイムライン

住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするものです。この作成過程で、それ以外の災害についての防災意識の高揚も期待できます。



新地町全体で 子どもたちを守る 「ながら見守り」

「ながら見守り」とは、大人が日常生活の中で防犯や交通事故防止などの視点を持って、子どもたちの安心・安全を見守る活動です。

買い物しながら 移動しながら 作業しながら

気づいたことがあれば、教育委員会が警察署へ

見かけない人がウロウロしている
あそこの空き家がキケン
怪しい人が子どもに声をかけている
子どもを勝手に抱えている
運転中に気づかれたときには、停車の上、ご自身の安全に十分留意しながらご連絡ください。

新地町教育委員会 62-4477
新地駐在所 62-3103
相馬警察署 36-3191

緊急時は110番です!

新地町・新地町教育委員会

第12回 新地町 さわやかだ わが家のおすすめ料理コンテスト

わが家のおすすめ料理

いつもの料理にひと工夫 アイディアいっぱい! 健康を考えて

新地町では、肥満傾向児の増加等、様々な健康問題が生じています。そこで、自ら健全な食生活を実践する力(食べる力)を育成するために、献立の作成、食材の準備、調理等のごはんを主食とした一連の食事作りを通して、生活習慣の改善や望ましい食習慣の形成を図るとともに、地場産物について関心を高め、未来を担う健康でたくましいふくしまっ子・新地っ子を育むことを目的とします。

本年度は、福島県教育委員会の「令和7年度ふくしまっ子ごはんコンテスト」をより活用する形で実施します。新地町の子もたち・保護者の皆さんが健康や地場産物活用を意識した「食」を実践していることを県民の方々にも広く知ってもらいたいと考え、応募時期・方法を変更いたしました。

なお、審査の都合上、募集締切と表彰まで間があくこと、あらかじめご了承くださいますよう、お願いいたします。

募集 令和7年8月29日(金)

締切 ふくしまっ子ごはんコンテストのめ切と同じです。

応募方法・内容

小学校の部
Aコース 「ふくしまっ子ごはんコンテスト」が、朝ごはん1食分の献立であることから、その中の「主菜」、「副菜」、「汁物」のレシピ(どちらかでもOK!)を町の応募用紙にまとめます。(募集形態は個人です。)

Bコース アイディアいっぱい、手軽に作れるメニューや栄養バランスのよいメニュー(主菜、主菜、副菜、汁物など何でもOK!)です。「給食に出たらうれしいな。」と思うレシピを町の応募用紙にまとめます。(募集形態は個人、友だちとペアやグループ、親子で参加など自由です。)

中学校の部
Aコース 「ふくしまっ子ごはんコンテスト」が、主菜と副菜(汁物は含まない)を組み合わせたお弁当の献立であることから、その中の「主菜」、「副菜」のレシピ(どちらかでもOK!)を町の応募用紙にまとめます。(募集形態は個人です。)

Bコース アイディアいっぱい、手軽に作れるメニューや栄養バランスのよいメニュー(主菜、主菜、副菜、汁物など何でもOK!)です。「給食に出たらうれしいな。」と思うレシピを町の応募用紙にまとめます。(募集形態は個人、友だちとペアやグループ、親子で参加など自由です。)

● 応募方法
・ 応募用紙を担任に提出してください。
● 留意点
・ 応募作品は、未発表のものに限りです。

審査方法・表彰

● 審査方法
・ 1次審査: 応募用紙(レシピ)による審査
・ 2次審査: 試食による審査
● 表彰
・ 1月に各小中学校にて表彰(予定)
・ 給食献立への活用、レシピ集への掲載等

お問い合わせ先
新地町教育委員会 教育総務課
Tel. 0244-62-4477



Ⅳ 学校教育

令和7年5月1日現在

■ 1 児童・生徒数

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計	学級数	
福田小	13	9	7	8	13	5	55	普通 5	特支 1
新地小	31	31	32	46	36	35	211	普通 8	特支 2
駒ヶ嶺小	20	19	25	24	20	19	127	普通 6	特支 1
小学校計	64	59	64	78	69	59	393	普通 19	特支 4
尚英中	66	55	74				195	普通 8	特支 2
合 計							591	普通27	特支 6

■ 2 教職員数

(1) 県雇用

学校名	校長	教頭	教諭	講師	養教	栄教	事務	SC	SSW	SSS	※1	※2	※3	合計
福田小	1	1	8		1		1	(1)	(1)	1			1	12
新地小	1	1	13	1	1	1	1	1	(1)	1			1	19
駒ヶ嶺小	1	1	8	1*	1		1	(1)	(1)	1			1	13
小学校計	3	3	29	2	3	1	3	1	0	3	0	0	3	44
尚英中	1	1	18	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	23
合 計	4	4	47	3	4	1	4	2	1	4	0	0	3	67

- 教諭、講師（常勤講師）、養護教諭、栄養教諭、事務職員は定数内の数（県単の補正含む）。
- 産休・育休等の任期付教員のうち、講師は教諭数に含める
- ※1 県外派遣教員（合計には含めない）
- ※2 長期研修教員（合計には含めない）
- ※3 休業中職員（再掲のため合計から除く）
- * 初任研補充のための非常勤講師1名を含む
- SC、SSW、SSS は、合計に含めない

(2) 町雇用

学校名	ALT	用務員	調理員	学習支援員	介助員	図書館支援員	ICT 支援員	合計
福田小	(1)	1	2	2	0	1	1	7
新地小	1	1	3	2	0	1	1	9
駒ヶ嶺小	(1)	1	2	2	0	(1)	1	6
小学校計	1	3	7	6	0	2	3	22
尚英中	1	1	3	1	0	(1)	1	8
合 計	2	4	10	7	0	2	4	30

- ALTは月定額雇用
- 用務員4名及び調理員10名の計14名のうち10名は会計年度任用職員
- 学習支援員及び介助員は会計年度任用職員
- 小学校のALTは新地小学校に計上
- 図書館支援員は、福田小学校と駒ヶ嶺小学校兼務1名（福田小に計上）、新地小学校と尚英中学校兼務1名（新地小に計上）の計2名

(3) 教職員数合計

学校名	県雇用教職員等	町雇用教職員等	合 計
福田小	13	7	20
新地小	21	9	30
駒ヶ嶺小	14	6	20
小学校計	48	22	70
尚英中	26	7	33
合 計	76	30	106

■ 3 学校医等

学校名	内 科	歯 科	眼 科	耳鼻科	薬剤師
福田小	菅野良恵	笹原健児	森安麗子	荒川一弥	黒沢百合
新地小	菅野良恵	笹原健児	森安麗子	荒川一弥	黒沢百合
駒ヶ嶺小	菅野良恵	笹原健児	森安麗子	荒川一弥	桜井ユリ子
尚英中	菅野良恵	笹原健児	森安麗子	荒川一弥	桜井利彦

■ 4 学校評議員

学校名	学 校 評 議 員 名 (職 業 等)
福田小	佐藤 和彦(福田郵便局長)、阿部 郁子(福田保育所長)、 小賀坂義紀(現 PTA 会長)、本田 和也(東林寺住職)、
新地小	菅野 昌孝(歴代 PTA 会長代表)、加藤 里佳(新地保育所長)、 濱野 重雄(地域住民代表)、西谷 真芳(地域住民代表)、 伊藤 佳枝(現 PTA 会長)
駒ヶ嶺小	鎌田 智博(現 PTA 会長)、竹澤 路子(駒ヶ嶺保育所長)、 大須賀 昇(歴代 PTA 会長)、阿部 恒夫(第13区行政区長)
尚英中	荒 達也(男女共同参画推進会議会長)、渡部 啓子(新地町人権擁護委員)、 齋藤 洋子(新地町保健センター保健師)、 伏見よし子(新地町主任児童委員)、大内 広行(元 PTA 会長)

■ 5 校長会・教頭会

役職名	校 長 会		教 頭 会	
会 長	荒 博史	新地小	稲村 良隆	新地小
副会長	橋本浩幸	尚英中	山内 政俊	尚英中
庶 務	武井 慎	駒ヶ嶺小	今野 智功	駒ヶ嶺小
会 計	青田 祥一	福田小	菊地 直樹	福田小

■ 6 新地町教育研究会

役職名	校長名	学校
会 長	武井 慎	駒ヶ嶺小
副会長・教職員セミナー部長	橋本 浩幸	尚英中
研究部長	青田 祥一	福田小
専門部長	荒 博史	新地小

■ 7 児童生徒数の推移

西 暦	年 度	福田小	新地小	駒ヶ嶺小	小学校計	尚英中	小中計
2025	R7	55	211	127	393	195	588
2024	R6	57	210	131	398	193	591

■ (前頁から続く)

西 暦	年 度	福田小	新地小	駒ヶ嶺小	小学校計	尚英中	小中計
2023	R5	57	209	128	394	210	604
2022	R4	64	207	138	409	210	619
2021	R3	63	192	141	395	222	617
2020	R2	62	195	145	402	222	624
2019	R元	69	193	153	415	233	648
2018	H30	70	190	158	418	240	658
2017	H29	73	200	164	437	249	686
2016	H28	80	207	160	447	254	701
2015	H27	92	217	159	468	262	730
2014	H26	98	224	158	480	247	727
2013	H25	104	230	156	490	233	723
2012	H24	104	243	163	510	240	750
2011	H23	108	219	166	493	256	749
2010	H22	111	230	134	475	249	724
2009	H21	120	256	128	504	239	743
2008	H20	125	256	124	505	250	755
2007	H19	127	256	114	497	261	758
2006	H18	128	262	111	501	284	785
2005	H17	121	279	111	511	285	796
2004	H16	118	302	112	532	285	817
2003	H15	122	283	127	532	268	800
2002	H14	121	289	134	544	304	848
2001	H13	119	292	139	550	325	875
2000	H12	121	283	145	549	361	910
1999	H11	126	299	162	587	364	951
1998	H10	130	301	167	598	390	988
1997	H9	122	323	174	619	397	1,016
1996	H8	126	353	188	667	393	1,060
1995	H7	134	369	197	700	395	1,095
1994	H6	137	380	212	729	403	1,132
1993	H5	140	403	208	751	398	1,149
1992	H4	144	390	218	752	414	1,166
1991	H3	152	394	221	767	402	1,169
1990	H2	153	399	213	765	422	1,187
1989	H元	156	412	214	782	429	1,211
1988	S63	154	410	222	786	451	1,237
1987	S62	154	430	230	814	458	1,272
1986	S61	149	443	248	840	441	1,281
1985	S60	144	495	233	872	403	1,275
1984	S59	148	485	240	873	362	1,235
1983	S58	143	478	231	852	340	1,192
1982	S57	148	484	213	845	345	1,190
1981	S56	144	447	210	801	329	1,130
1980	S55	133	426	194	753	326	1,079
1979	S54	138	401	187	726	345	1,071
1978	S53	113	371	170	654	373	1,027
1977	S52	121	364	166	651	393	1,044
1976	S51	136	349	175	660	417	1,077
1975	S50	150	364	179	693	444	1,137
1974	S49	158	360	181	699	497	1,196
1973	S48	181	345	212	738	546	1,284
1972	S47	205	371	240	816	571	1,387
1971	S46	231	396	256	883	584	1,467
1970	S45	221	444	287	952	608	1,560
1969	S44	241	467	310	1,018	633	1,651
1968	S43	255	520	316	1,091	675	1,766
1967	S42	259	572	335	1,166	749	1,915

■ 8 小・中学校施設

施設名	新地町立福田小学校
創立年月	明治11年5月
所在地	〒979-2708 新地町大字福田字中里16
電話等	TEL:0244-62-2303 FAX:0244-63-2016
E-mail	fukuda-sl@bz04.plala.or.jp
施設概要	校舎：昭和43年12月／RC造1,372㎡ 平成22年6月 耐震補強及び大規模改修 屋体：昭和46年10月／鉄骨造495㎡ 平成22年6月 耐震補強及び大規模改修 プール：平成26年8月／ステンレス製25m×6コース（町民プール） 全面改築（平成26年度完成） エアコン：令和元年7月／各教室 トイレの洋式化：令和2年3月

施設名	新地町立新地小学校
創立年月	明治5年5月（1872.5）
所在地	〒979-2702 新地町谷地小屋字愛宕1
電話等	TEL:0244-62-2006 FAX:0244-63-2506
E-mail	shinti-sl@bz04.plala.or.jp
施設概要	校舎：平成4年8月／RC造4,166㎡ 屋体：平成13年8月／鉄骨造1,283㎡ プール：平成13年12月／FRP製25m×6コース エアコン：令和元年7月／各教室 トイレの洋式化：令和2年3月

施設名	新地町立駒ヶ嶺小学校
創立年月	明治5年6月
所在地	〒979-2611 新地町駒ヶ嶺字新町前52
電話等	TEL:0244-62-3007 FAX:0244-63-2039
E-mail	koma-sl@bz04.plala.or.jp
施設概要	校舎：平成13年2月／木造・RC混造4,406㎡ 屋体：平成12年2月／木造・RC混造1,099㎡ プール：平成13年12月／FRP製25m×5コース エアコン：令和元年7月／各教室 トイレの洋式化：令和2年3月

施設名	新地町立尚英中学校（福田中学校、新地中学校、駒ヶ嶺中学校の3校を統合）
創立年月	昭和40年4月
所在地	〒979-2702 新地町谷地小屋字愛宕38
電話等	TEL:0244-62-2052 FAX:0244-63-2138
E-mail	shoeijhl@bz04.plala.or.jp
施設概要	校舎：平成9年12月／RC造5,243㎡ 屋体：平成11年3月／鉄骨造1,326㎡ プール：町民プール使用 エアコン：令和元年7月／各教室 トイレの洋式化：令和2年3月